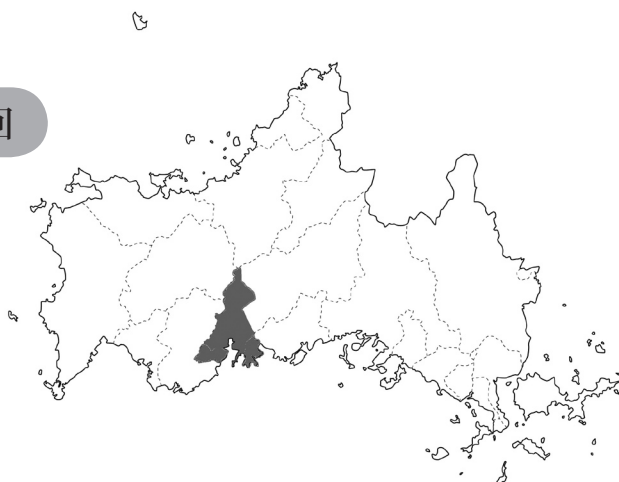


郡市医師会めぐり 第 18 回

吉南医師会



吉南医師会は、旧山口市南部地区（陶、鑄銭司、名田島、秋穂二島、嘉川、佐山）と旧吉敷郡 3 町（小郡町、阿知須町、秋穂町）の地区にある医療機関で構成されています。つまり、現在の山口市南部地区が医療圏となります。現在、山口市の人口が約 20 万人で、このうち当医師会の範囲では約 6 万人です。

現在、山口市には山口市医師会と吉南医師会、二つの医師会があります。その経緯は少々分かりにくいですが、簡単に説明します。

まず吉南という言葉の説明です。明治の町村制施行により、吉敷郡山口町、吉敷郡小郡町、その他吉敷郡内に多数の町村が造られました。吉敷という地名は、鎌倉時代からこの地域を表わす言葉として存在していました。小郡町及びその近隣を吉敷郡の南部、吉南と呼びました。山口町は、その後数回の合併を経て昭和 4 年に山口市になります。昭和 19 年、山口市と小郡町、阿知須町その他周囲の村が合併し、新生山口市が誕生します。昭和 4 年に山口市医師会が、それまであった吉敷郡医師会から分離します。19 年の合併の影響と思われますが、昭和 20 年 11 月に吉敷郡医師会は山口県医師会吉敷支部となります。

昭和 22 年、山口県医師会から、山口県医師会吉敷支部を新たに郡市医師会として整備するようにとの指示がありました。戦後の、全国的な郡市医師会整備の流れだった様です。同年、社団法人吉南医師会が発足し、山口市に同時に二つの郡市医師会が存在することになりました。昭和 22 年に阿知須町が、24 年に小郡町が山口市から分離

しますが、吉南医師会はそのまま存続し、平成 17 年の山口市・小郡町・阿知須町の合併で再び山口市に変わってからも二つの医師会が続いています。

吉南医師会館は小郡に在ります。小郡は古くから山陽道の宿場町で、交通の要所でした。山陽本線小郡駅に、山口線と宇部線が開通してからは機関庫が移転されて来て、鉄道と商工業の町として栄えました。国道 2 号線と 9 号線が交わる町でもあります。県央部唯一の新幹線駅となったため、私達に馴染みの製薬会社を始め、中央企業の支店・出張所も多く在ります。一昔前、小郡駅北の大正通りは、鉄道などで来る人で大賑わいで、日曜日はいつも祭りの様だったそうですが、残念ながら今はその面影はありません。小郡駅は平成 15 年に新山口駅に名称を変え、新幹線のぞみが停車するようになり現在に至っています。また、山口国体の開催に合わせて、無料の自動車専用道路として整備された山口宇部道路の開通により、小郡から宇部空港までが約 20 分となり非常に便利になりました。なお再来年には、山口宇部道路は中国自動車道と小郡 JCT で接続するようになります。

地域内の産業の一つに、南部の秋穂のクルマエビの養殖があります。昭和 38 年に世界で初めて、同地でクルマエビの養殖が事業化されました。オガクズの中に詰められて生きたままで届けられ、台所で跳ね回って大騒ぎになった先生も多いと思います。この養殖クルマエビを使ったイベントに、「えび狩り世界選手権」があります。毎年夏に、中道海水浴場で 15,000 尾のクルマエビが放流さ

れ、それを手掴みで捕るものです。1,600 人の参加がありますが、大人気で 20 倍から 30 倍の抽選で、国内遠方や海外からの参加者もいるようです。

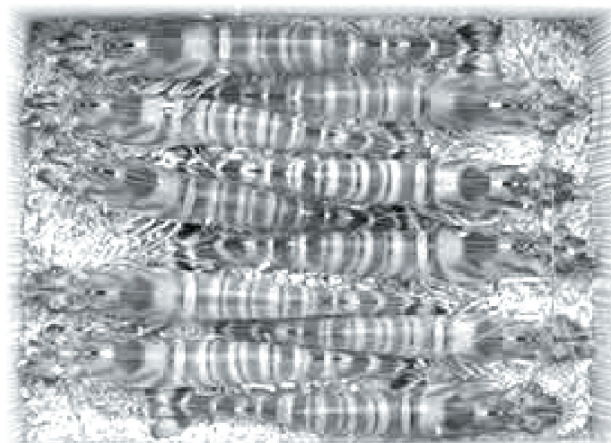
阿知須きらら浜では昨年、第 16 回日本ジャンボリーが開催されましたが、来年の夏には、第 23 回世界スカウトジャンボリーが同地で開催されます。世界中から 3 万人の青少年が集まり、約 2 週間キャンプ生活を行います。体調不良の参加者が出る事も考えられ、宇部や吉南・山口・防府などの医療機関を受診する可能性があります。

文化施設としては、小郡に種田山頭火の其中庵があります。防府出身の俳人種田山頭火は、44 歳で行乞と句作の放浪の旅に出ますが、その後小郡に庵を構えます。それが其中庵で、ここでの 7 年間は、漂泊の旅に出てから 58 歳で生涯を終えるまでの間で、一番長い定住の時間でした。ここで 5 つの句集を出版するなど充実した時期を過ごしています。現在の建物は、これを復元したものです。近くにある小郡文化資料館には、関連の品々が展示されています。

「はるかぜのはちのこひとつ」

吉南医師会は、現在会員 108 名で、病院 6・診療所 42・健診センター 1 で構成されています。

前述の交通の便利な土地柄のため、各科の研修会や学術講演会が盛んです。当医師会が後援・共催する学術講演会だけでも年約 30 回開催され、その他にも吉南医師会内部の症例検討会、山口市医師会との合同研修会、吉南三師会合同研修会な



進物用クルマエビ

どが開催されます。吉南歯科医師会・吉南薬剤師会との三師会では、一つの疾患や領域に関する演題を持ち寄って研修します。糖尿病が主題の会では、歯科医師会からは「医科歯科連携一周術期の口腔管理及び糖尿病と歯周病との関係について」、薬剤師会からは「糖尿病治療薬の併用について」、当会からは「当院におけるインクレチン製剤の治療効果」の演題があり有意義な研修会となりました。三師会ではその他、合同のボーリング大会やゴルフ大会を開催し、交流を深めています。

昨今、病院小児科医の負担は大きく、その軽減のため小児救急医療啓発事業講習会が開催されています。昨年末は小郡幼稚園において、近くのお母さん方に対して、濱本史明先生による「子どもの病気の時のホームケア」と題した講習がありました。体温の話、発熱時のケア、腹痛など夜間お母さま方が困られる症状・病気についての講演で、不要不急の特に夜間の小児科受診を少なくしようとの内容でした。

吉南医師会では初期救急医療体制として土曜・休日に当番制を行っています。土曜日は 19 時から 22 時まで内科系・外科系各 1 施設、休日は 9 時から 18 時まで内科系 2 施設・外科系 1 施設に協力して頂いています。二次救急としては、山口市医師会管内の山口赤十字病院と済生会山口総合病院、当医師



きららドーム

会内の小郡第一総合病院の 3 施設が、年 365 日輪番制で担当となっており、救急体制が整っています。各病院の先生方には感謝致します。

吉南医師会は、吉南准看護学院を経営しており、医師会館と同じ敷地内に在ります。昭和 30 年に設立された第一病院付属准看護婦養成所を引き継ぎ、創立 59 年になります。卒業生はこれまでに 1200 人を超え、その多くはこの地域及び県内の医療機関に就職しているとの報告があり、地域での看護要員の確保に大きく貢献しています。ただ、国民から高い医療の質を求められるようになった昨今、当学院から直接、看護学院へ進学して行く卒業生が 6 ～ 7 割に達しています。准看護師制度を残すか廃止するかという問題が取り沙汰されて来ましたが、少子高齢社会を迎え、近い将来、看護要員の不足が見込まれている現状では、国は



種田山頭火



其中庵

この制度を簡単には廃止出来ないだろうと考えられます。

高齢化社会における訪問看護や自宅での看取り、疾病の予防や健康の維持・増進のための活動、妊婦の保健指導など、単独の医療機関だけでは対応が難しい状況です。地域医療において、医師会の役割は今後も大きく、地域の行政や住民組織と協力していくことが重要で、吉南医師会として貢献していく所存です。

〔吉南医師会広報担当理事 内 義輝〕